

POULTRY WORLD

1月15日2024年

Egg farmers shun avian influenza vaccination strategy 採卵養鶏農家が鳥インフルエンザワクチン接種戦略を敬遠



Defra の鳥インフルエンザワクチン接種タスクフォースのメンバーであるゴードン・ヒックマン氏は、現在の政府の方針では、イングランドと北アイルランドでは動物園以外の飼育鳥へのワクチン接種は認められていないと述べた。写真 ロナルド・ヒッシンク

今年の英国放し飼い鶏卵生産者会議では、鳥インフルエンザワクチン接種がもたらす課題と、農場保証枠スキーム（計画）に関する協議不足への懸念が注目を集めた。Poultry World がテルフォード国際センターからレポートする。

英国放し飼い卵生産者協会（British Free Range Egg Producers Association）傘下の卵生産者は、世界貿易要件を満たすためのサーベイランスに関連するコストを知った後、鳥インフルエンザワクチン接種に背を向けた。1時間にわたるディスカッションの最初と最後に行われた世論調査では、当初ワクチン接種を支持していた生産者全員が、後にワクチン接種に反対したことが判明した。

環境・食料・農村地域省（Defra）の外來病対策責任者で AI ワクチン接種タスクフォース（実行部隊）のメンバーであるゴードン・ヒックマン氏は、現在の政府の方針では、イングランドと北アイルランドでは動物園以外の飼育鳥へのワクチン接種は認められていないと述べた。その代わりに、病気の根絶と強固なバイオセキュリティに頼っている。ヒックマン氏によると、ワクチン接種は他の対策と組み合わせて初めて効果を発揮するが、現在のところ、ワクチン普及のための英国基準をすべて満たすワクチンやワクチン技術は英国では認可されていないという。

DIVA 戦略

DIVA 戦略（Differentiating Infected from Vaccinated Animals：感染動物とワクチン接種動物の識別）は貿易に不可欠であったが、もし英国内の様々な動物種をカバーするために複数のワクチンタイプが必要であれば、サーベイランス試験のアプローチが複雑化する。また、貿易要件を満たすために必要なサーベイランス要件は、たとえ安価なワクチンで様々な種をカバーし、1回の接種で予防効果を発揮するものが見つかったとしても、ワクチン導入の手ごろさ と費用対効果にとって大きな障壁となる。

EU や世界各国が単一種のワクチン接種を受け入れるとは考えにくく、アメリカなどの国々はいまだにこのコンセプトに猛反対している。それでもヒックマン氏は、予防措置として使用する効果的なワクチンの開発は、政府にとっても産業界にとっても重要な優先事項であると述べ、ワクチン接種対策委員会が近々進捗報告書を作成するだろうと付け加えた。また、2024年3月に報告が予定されている EFSA（欧州食品安全機関）の研究を引き合いに出し、将来的にサーベイランステストが緩和される可能性についても言及した。

考察

Crowshall Veterinary Services のパートナーであり、英国卵産業協議会のコンサルタント獣医師であるイアン・ロウリー氏は、ワクチン接種に関して、このセクターが考慮すべき3つの分野があると述べた。しかしロウリー氏は、ウイルスの変化やワクチンの製造・投与に時間がかかることから、農業界は「常に後手に回る」ことになると警告した。

実際的なことー入手可能性、管理ルート、効果、評判、投与回数、サプライチェーン。

経済性——ワクチン製造とサーベイランスのコスト、スワブ検査にかかる獣医学的コスト、どのようなセクター（部門）がワクチン接種を望むか。

貿易——アイルランドへのヒナ、EU および非 EU 諸国への食肉・卵製品の輸出、繁殖家畜。

家禽ワクチンのスペシャリストであるローズヒルのデイブ・ホドソン代表取締役は、ワクチン接種だけでは特效薬にはならないと述べた。「今日からワクチン接種を始めたとしても、2025 年末まで全頭接種することはできないでしょう」とホドソン氏は指摘し、以下の 4 つの問題を考慮する必要があると付け加えた：

- 1) 商業用および野生の鳥類に循環している鳥インフルエンザ株の広範で積極的なモニタリングプログラムが実施されなければならない。
- 2) ワクチンは、抗原的に野外で流通している系統に近いものでなければならない。
- 3) すべての商業用鳥の群れを強制的に監視し、新しい染色体や遺伝子変異を確実に検出できるようにしなければならない。
- 4) その後、必要に応じてワクチンを調製し、困難なウイルス株に対する防御を提供しなければならない。

コスト増の福祉対策

RSPCA（英国動物虐待防止協会）福祉認証部門は、鳥インフルエンザの予防接種に関するコスト増と不確実性への懸念に加え、最新の福祉認証改訂にベランダと自然採光を導入しようとする動きもあり、英国放し飼い卵生産者協会の年次総会の同組織ブースには怒りに満ちた農家が殺到した。改訂された福祉基準は、スケジュール、実用性、コスト、そして協議の不足が懸念され、非常に評判が悪い。

RSPCA 福祉認証部門の責任者であるニール・スコット氏への公開書簡の中で、英国卵産業協議会のアンドリュー・ジョレット氏と英国放し飼い卵生産者協会のジェームス・バクスター会長は、ベランダ周辺の新基準は地形や換気の関係で現実的な導入が難しいと書いている。窓の設置は、鳥の管理をより困難にし、劣悪な福祉結果のリスク増加につながる可能性がある。「商業的な実行可能性という点では、ベランダと窓の設置にかかるコストは 1 羽あたり約 10 ポンド（11.50 ユーロ）と見積もられており、これは全国 2600 万羽の放し飼いの群れを基準にした場合、約 2 億 6000 万ポンド（3 億ユーロ）に相当する。私たちは、この多大なコストが市場から回収できるとは考えておらず、放し飼い生産者がこのコストを負担することは期待できない。「科学的根拠と費用便益分析が欠如していることも非常に残念だ」と彼らは付け加え、経営幹部との緊急会談を求めた。

しかし、英国卵産業協会（BEIC）のゲイリー・フォード副 CEO に対しては、9 月 1 日に施行されたライオン・コード第 8 版の協議が不十分であったという怒りが向けられた。特に

サルモネラ菌に関する食品安全規範が主体となっているが、鶏の福祉基準が前面に押し出され、環境基準が強化されている。

フォード氏は、英国政府の動植物衛生局が方針を変更し、生産者が農場内でサルモネラ菌を確認検査する機会を拒否するという決定を下したことに批判的だった。その代わりに、BEICは、鳥がレイヤーファームに移動する前の若鶏の段階でのサルモネラ検査に義務を課し、これは2024年6月1日に施行される予定である。フォード氏は、ライオン・コードに環境基準を導入した理由として、消費者の間で環境問題への関心が高まっていることを挙げ、植物由来の製品を打ち出す競合他社を撃退する上で、信頼性と強みが増すと述べた。

ベテランのマーク・ウィリアムズ BEIC 会長の後任として就任したフォード氏は、コミュニケーション、協力関係の構築、知名度の向上について、より一層の努力が必要であることを認めたが、カントリー・フレッシュ・パレットのトム・ランダー氏にとっては、それだけでは不十分であり、このセクターは議論に何の発言権も持たなかったと不満を述べた。参加者の拍手喝采を浴びながら、ランダー氏は修正を急ぐ必要があると述べた。南西部の放し飼い生産者であるマーティン・フォード氏は、スーパーマーケットがポーランドやイタリアの安い卵を仕入れている今、追加基準が農家にどれだけの負担になるかを知りたがった。

ウィリアムズ氏によると、ワーヘニンゲン大学との共同研究に基づく最新の数字では、食品安全、環境、動物福祉に関する政府の規制要件を満たす卵の生産は、総コストの14%を占めるといふ。さらに、バージョン8の協議には、英国放し飼い卵生産者協会および全英農業者組合との2年にわたる相当な対話が含まれていることを強調した：「私たちは世界で最も強固な食品安全・動物福祉・環境保証制度を持っています」。